

研究課題 (テーマ)		体位変換技術に含まれる尊厳に関する構成要素の分析 -見る・話す・触れるの視点から-		
研究者	所属学科等	職	氏名	
代表者	看護学部 看護学科	助教	矢野正晃	
	看護学部 看護学科	准教授	林静子	
	看護学部 看護学科	講師	鷺塚寛子	
	看護学部 看護学科	助手	細田恵莉奈	
研究結果の概要				
<p>【目的】体位変換の教育に関わっているベテラン看護学教員は、どのように患者の尊厳を配慮した体位変換技術を実践しているのか、その要素を明らかにする。</p> <p>【対象】看護基礎教育において体位変換の技術教育を5年以上経験した教員5名。</p> <p>【方法】ベッドに仰臥位の模擬患者に対し、仰臥位から側臥位への体位変換を実施してもらう。被験者が体位変換を行う様子を、視線計測 (Tobii)・ビデオ撮影にて記録する。その後、被験者と共にビデオ映像を確認しながら、行動の根拠を問う半構成的インタビューを行う。実験前に、共同研究者を被験者としたプレテストを行い、実験機材の配置や設定、データ収集の視点を明確にした。</p> <p>【プレテスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>対象：実施者は本学で体位変換技術を担当している共同研究者1名(教員)、模擬患者役も共同研究者1名(教員)</li> <li>実験方法：基礎看護学実習室に模擬病室を作成し、右図のようにビデオカメラ3台を配置(右図)、実施者には視点を計測するためグラスタイプ視線計測システム(Tobii)を装着した。</li> <li>体位変換を①頭の位置調節②腕の位置調節③膝を立てる④側臥位にする⑤体位の安定のフェイズに分け、被験者に対し、行動の根拠を問う半構成的インタビューを行った。</li> </ol> <p>【プレテストの結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視点計測 (Tobii)：キャリブレーションを適切に行うことで、体位変換のフェイズごとの体に触れる前・中・後に、被験者が注視している箇所を撮影できることを確認した。</li> <li>3台のビデオ撮影：ベッドのヘッドボードとフットボードを取り外すことで、フェイズごとの被験者の動きを、多角的に撮影できた。その上で、各ビデオカメラの位置と角度を、全身の動きとともに、直接模擬患者の体に触れる手の動きを撮影できるような設置場所を決定した。</li> <li>インタビュー：フェイズごとに、特徴的な手の使い方について、具体的な行動を示しインタビューすることで、行動の根拠や留意点を聞くことができた。</li> </ul> <p>※プレテストの結果を踏まえ、授業や科目評価を終えた2月中旬～3月に本実験を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、実施時期を見合わせている</p>				
今後の展開				
新型コロナウイルス感染の拡大に伴う行動制限が緩和した時点以降に、本実験を実施する。研究データの分析を進め、学会発表、論文投稿を目指す。				

